

» ガバナンスの監視内部統制評価と業務監査

監査部が行う業務監査では、法令および規程、全社的
内部統制などに則った業務が遂行されているか、支店・事
業部・グループ会社を対象に、ヒアリング、書類確認を実
施しています。監査の結果、改善すべき指摘事項は、当該
部門に原因と対応策（再発防止策）の提出を求めるととも
に、主管部門による指導・改善につなげています。

統合マネジメントシステム

» 目標達成と製品・活動の適合性を確保する マネジメント

ガバナンス体制を踏まえ、各部門が目標達成と製品・
活動の適合性を確保する経営および業務運用プロセスが
「フジタマネジメントシステム」です。営業、設計、工事、
調達、技術、研究など、すべての部署の業務はマネジメン
トの要素であり、目標達成とトラブル回避を行う必要があ
ります。そこで規格認証に沿って、部門ごと、また品質、
環境、安全ごとに行われていた運用を改善しました。現在
は①品質、環境、安全ほかすべての業務を扱う（マネジメ
ント要素の統合）、②本社、支店などを含む全社一体で運
用する（組織の統合）、③フジタの日頃の業務プロセスに
規格要求事項をあてはめる（業務の統合）の3点を実施し、
運用しています。

フジタでは2020年度より、マネジメントの目的を「目
標達成とリスクの回避」へと転換し、それにともなうマ
ニュアル類の改訂、重大な品質事故につながる施工プロセ
スの改善、事故報告のシステム化、品質施工/監理プロセ
ス監査、目標設定・評価とマネジメントレビューの統合運
用などを継続的に実施しています。

2025年度は、品質事故を予防する業務フロー・プロセ
スの見直し・改定、国際部門マネジメントシステムの現地
化に取り組みました。

2026年度は、組織体制の変化を踏まえた業務プロセス
の構築、拡大安全品質施工会議の充実による事故予防など
に取り組みます。

» マネジメントシステムの運用・内部監査・ マネジメントレビュー

当社のマネジメントシステムは、マニュアルや要領に
従い、要求事項や社会的課題からリスクと機会を見極めて
目標を設定し、活動と成果を評価したうえで、継続的に改
善しています。

作業所では「基本計画書」「工事安全衛生計画書」によ
り安全・品質・環境リスクを抽出し、目標または管理項目
として運用しています。

「内部監査チェックリスト」は、2022年度から「目標
達成の課題抽出」「業務プロセス運用の確認」「課題と原因
の深掘り」を重視した項目・内容に改定し、運用していま
す。2025年度は、各部門合わせて229件（内勤149件、
作業所80件）の内部監査を実施し、目標設定、業務プロ
セス、環境課題など、不適合43件、観察事項134件、改
善提案159件、好事例90件を挙げ、部門ごとに内部監
査報告会を行い改善しました。

2026年度は内部監査、品質施工/監理プロセス監査、
業務監査、外部審査（ISO認証審査）などの結果、災害・
事故、マネジメントレビュー、ISO14001:2026の改訂を
踏まえ、「業務フロー・業務プロセスに基づくマネジメン
ト」「全社および部門マネジメントレビューの展開」など
4項目を内部監査方針に掲げ、安全、品質、労働環境/エ
ンゲージメント、環境、気候変動など8項目の重点項目
を抽出し、展開します。

目標達成や運用を評価・改善するマネジメントレ
ビューは、各部門、経営層がそれぞれ年2回実施します。
前期の課題を踏まえて2025年度は、「安全」「品質」「業績」
「業務フロー・プロセスの運用」「DX」「GX/人財/コン
プライアンス」の6課題（下期は新たに「大型プロジェ
クトの推進」を加えた7課題）について、社長指示事項
を発信し、活動に反映、展開しました。

2026年度は、「事業と業績」「大型プロジェクトの推進」
「人財・組織とコンプライアンス」「DX・オフサイト建設」「安
全」「品質と環境」の6課題を社長指示事項として展開し
ています。

» マネジメントシステムと外部審査(ISO認証審査)

現在、フジタ全部門一括で、ISO9001（品質）、
ISO14001（環境）、ISO45001（安全）規格の認証登録
を一般財団法人建材試験センターから受けています。同セ
ンターによる当社のマネジメントシステム統合度判定は
最高ランクで、審査も統合審査方式で行われています。

2025年度の審査では、観察事項2件、その他に推奨
事項48件、日々の検出事項があり、それぞれ処置・再発
防止策を実施しました。

このほか、品質を支援するマネジメントの一環として、
ISO19650（BIM）の認証登録を受けています。関係会社
3社、海外5拠点でも独自に認証登録しています。

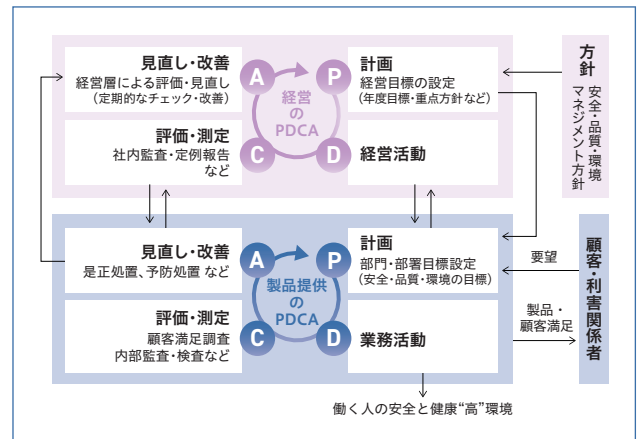
» 品質事故とマネジメント改善

2021 年度に発生した重大な品質事故では、技術上の処置対応もさることながら、工事再開にあたってはお客さまから施工プロセス上の分析を踏まえた再発防止策を求められました。これをきっかけに、2022 年度から品質・環境本部に建築・土木検査業務を移管したほか、品質監理部を新設し、品質施工／監理プロセス監査を運用しています。事故分析では、関係部門・部署が連携し、技術上、施工プロセス上の課題を踏まえ、再発防止を展開しています。

2025 年度は「信頼される品質 すべて即時報告！」をスローガンに掲げ、重大品質事故度数率 0.15 未満、利益損失率 0.15% 以下を目標に、関係部署が連携しながら本部を含めた検査・パトロールの充実、拡大安全品質施工会議でのリスク抽出を行いました。その他にも、利益損失を防ぐために、専門チームによる指導の強化に取り組みました。

2026 年度も引き続き、「信頼される品質 すべて即時報

告！」をスローガンに、フロントローディングによる品質ミス・ロスの低減や、即時報告と組織的連携による事故への早期対応と再発防止などに取り組みます。



安全・品質・環境マネジメント方針

<https://www.fujita.co.jp/company/charter/?open=Management#Management>

リスクマネジメント

リスクマネジメント体制

フジタは、あらゆるリスクに対して「早期発見、早期対応、予防を徹底し、予兆を見逃さない」を基本姿勢として、さまざまなケースを想定し、リスク回避に努めています。

さらに、トラブルやリスクを予見・確認した場合は大和ハウス工業への情報共有を行うとともに、大和ハウスグ

ループのリスクマネジメント体制と連動し、大和ハウスグループとの連携を強化しながら、リスクマネジメントを行っています。

また、本社審議会を設置し、建設工事受注および不動産事業推進などについて各種基準に基づきリスクを分析・検証するとともに、必要に応じて専門家の意見を聴取し、職務権限に則って適正に審議・決議する体制をとっています。

